

都慢研調査レポート NO.1

東京都における療養病床の現在数は・・・

とりわけ急性期病院からの受け皿機能として 26 年診療報酬改定でも加算要件として、在宅復帰率を求められるなど益々重要な役割を担うであろう療養病床ですが、現時点における区部と市町村（多摩地域）の実態はどのようなになっているのか検証してみました。

下図は当会の MSW 部会で使用している分布図ですが、都内における三次救急病院の数は 21 ヶ所を数えますが、23 区内に 13 ヶ所が集中し、多摩地域には 8 ヶ所となっています。急性期を脱した患者さんの受け皿機能としての慢性期病院とのバランスがこれまでも議論されてきました。

三次救急病院と慢性期病院の分布



そこで、図からは読めない H26 年 1 月時点における都内の療養病床分布はどうなっているのか調査しました。都内人口を 2 区分として、慢性期病床を有している病院の数との関係を検証してみました。

東京都人口 (H26 年 1 月時点)

区分	人口 (人)
区部	9,067,255
市町村 (島しょ部は除く)	4,199,449
東京都合計	13,266,704

療養病床を有する施設数（H25年11月）

	施設数	割合(%)	病床数	割合(%)	人口10万対
区部	166	64.1	12,162	54.0	134床
市町村	93	35.9	10,364	46.0	247床
合計	259	100	22,526	100	170床(平均)

以上のように人口10万人に対する区部に有する134床という数はH23年10月公表の全国の療養病床数における47都道府県中最下位の宮城県141.3床よりも少ないという結果となり、区部における深刻な療養病床不足を感じずにはられません。

一方で市町村部の数値は一見多いように見えますが、それでも全国では三重県と同じくらいの30位くらいです。都内全体での平均値170床はその時点では160.1床でしたので、この2年で微増という結果となっています。ましてこの全体数は介護療養型の約5千床が入った数値ですので、まだまだ絶対数で不足していることがいえます。